

# 岩手農大同窓会会報

第 28 号

令和 3 年  
3 月 1 日

【発行・編集】岩手県立農業大学校同窓会 岩手県胆沢郡金ヶ崎町六原蟹子沢 14 TEL 0197-43-2211



花の館温室上空から夏油方面をドローンで撮影



## 新しい希望が芽生える年をめざして

岩手県立農業大学校同窓会

会 長 笹 田 昭 市

「早春の候、同窓会員の皆様には、ご健勝でご活躍のこととお喜び申し上げます」という今までの時候の挨拶を、今年は変更せざるを得ない状況となっています。

あらためまして、我が同窓会員の皆様には、“新型コロナウイルス”にも負けずにお元気で過ごしのことと存じます。

さて今年、昔からの暦の干支では、十干の「辛」、十二支の「丑」ということで、「辛丑<sup>かのとうし</sup>」の年となります。「辛」は、ツライ、カライ、ヒドイという意味を持ち、思い悩みながらゆっくりと衰退していくことや、痛みを伴う幕引きを意味するようです。また、十二支の「丑」は発芽直前の芽が種子の堅い殻を破ろうとしている状態で、新しい命の芽吹きを表しているそうです。つまり、辛いことが多いだけ、大きな希望が芽生える年になることを示しています。

直近の「辛丑」は、前回東京オリンピック 3 年前の 1961 年（昭和 36 年）でした。この年の冬は、前

年の暮れから正月にかけて日本海沿岸部を中心とした「三六豪雪」があり、当時の国鉄が大被害を受けています。また 9 月には、台風 18 号が「第二室戸台風」として中部地方や北陸地方で猛威を振るっています。

その後の「丑」年（昭和 48 年、昭和 60 年、平成 9 年、平成 21 年）では、大きな気象災害は出ていません。しかし、社会的な出来事を見ると、昭和 48 年には第 1 次オイルショック、昭和 60 年には日航ジャンボ機墜落事故等、記憶に残る出来事が起きています。

さて、今年の「辛丑」はどのような年になるのでしょうか？

現在、世界中で猛威を振るっている「新型コロナウイルス」について、痛みは伴いますが、人類の英知を結集して早期に終息をはかり、夏の東京オリンピック開催に向けて希望の芽が生まれる年となるようにしていきたいものです。



# 農大生、コロナに負けず奮闘中！

岩手県立農業大学校

校長 菊池 徹 哉

岩手県立農業大学校同窓会の皆様におかれましては、日頃より本校の教育活動に様々なご支援・ご協力をいただいておりますことに心より感謝申し上げます。

令和2年は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、人類史上に残る、かつて経験したことのない年となりました。

本校においても、入学式の開催にあたっては、ご来賓を関根県議会議長様他の3名に絞り込み、学生1名につき保護者の出席を1名に限定、在校生は自治会長のみ出席とすることとした他、毎年開催してきた米国カリフォルニア大学デービス校への海外農業研修の中止、農大祭では、3密防止として開催日数を2日から1日に短縮し、飲食を提供しないスタイルでの開催とするなど、多くの制約の中で、新型コロナウイルスの感染防止を最優先課題に据えて、学校運営に取り組んできたところです。

ここで、令和2年度の本校学生の活躍についてご報告させていただきますと、まずは、東日本農業大学校等の意見発表会では、花き経営科の学生が最優秀賞、肉畜経営科の学生が優秀賞を、卒業研究内容を発表するプロジェクト発表会では、野菜経営科の学生が優秀賞を獲得し、この3名が全国大会への出場を果たしました。

また、花き経営科の学生が、第58回技能五輪全国大会「フラワー装飾」職種において、本校はもとより本県初となる金賞を受賞。加えて、第31回ヤンマー学生懸賞作文の部で、野菜経営科の2年生2名が金賞と銅賞をダブル受賞するという、本校初めての快挙を成し遂げるなど、岩手農大で学んだことをもとに輝かしい実績を残してくれました。

さらに11月20日には、農大に達増拓也県知事をお迎えし、本校2年生7名と知事による県政懇談会「いわて幸せ作戦会議 in 金ケ崎」を開催し、「農業による自己実現とふるさと（岩手）への思い」をテ

ーマに意見交換を行いました。学生たちから将来の夢の実現に向けた熱い想いを聞いた知事は「農業に関わることが地域振興につながる。農業によって自己実現を図れるよう自信と誇りをもって進んで欲しい。」と激励をいただきました。

また、今年度の岩手農大最大のテーマである農産園芸学科のAS I AGAPの認証（米、トマト、りんご）を12月に取得、畜産学科の農場HACCPについても、3月の初めに取得の見通しが立つなど、教職員と学生が一丸となって取り組んだ結果、いずれも本県の農業教育機関として初の取得となり、今後県内に農業分野の生産工程管理を普及拡大していくにあたって、本校がけん引役の先頭を担っております。

なお、この冬、金ケ崎町六原はたいへんな豪雪に見舞われ、実習用パイプハウスの倒壊や牛舎屋根の破損など多くの被害（総被害総額4千万円余）を受けました。

大学校創立40年を経て、本館をはじめとする大学校施設の老朽化が著しい状況ですが、「岩手農大で農業を学びたい」とする学生のために、農業教育環境の整備に取り組みながら、岩手農大の益々の発展に向けて全力で取り組んでいく所存ですので、同窓会の皆様には引き続き特段のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



県政懇談会にて達増知事と記念撮影

- 新たな旅立ちにあたり -

## 今春卒業し、同窓生の仲間入りをする学生からの寄稿



### 2年間の経験を糧に

農産経営科 2年 泉澤 一真

私は、就農することを視野に入れて農業大学校に入学しました。この2年間で、様々な技能や知識を身につけることができました。また、事例研究や長期に渡る研修を通して様々な農業の形を知ることができました。農業大学校を卒業した後は、自家就農します。ただ面積を拡げることだけを考えていましたが、事例研究やセミナーで影響を受けた、土壌を改良し美味しいお米を作ることも視野に入れていきます。試行錯誤し、頑張りたいです。



### 誇りを胸に

農産経営科 2年 佐々木 佳陽

農業大学校での経験は、私の人生において大きな誇りです。2年間というのは本当にあっという間で、その中で農業の楽しさ・難しさ、自分自身の成長、仲間の存在の大切さを改めて感じることができました。私は卒業後、地元に戻り就農します。入学当初は就農なんて考えてもいなかったのに、農大で学ぶ中で、農業の楽しさ・魅力に気付いてしまったようです。ここでの出会いに感謝し、“農”の未来を支えていきたいと思います。



### 農大で学んだこと

野菜経営科 2年 菊池 亮

私はこの農業大学校を卒業後、地元である一関市のJAいわて平泉に営農指導員として就職をします。私は農大在学中に実習や事例研修、卒業研究などを通して様々な経験や知識や知見を得ることが出来ました。特に卒業研究で行ったナスの栽培では自分で播種から収穫、管理までを行い、自分の設定した課題をどう解決するのかを考えたことは、とても良い経験になったと思います。この経験をJAいわて平泉に入った際に有効に使い、地元の農業振興に携わっていききたいと思います。



### 学びを活かす

野菜経営科 2年 清水邊 未来

私は、農業大学校で野菜に関して多くの知識や技術を学んできました。事例研究では、実際に現場を見ることができたので、勉強になることがたくさんありました。また、寮生活などを通して、たくさんの人と交流するなど貴重な経験を積むことができました。

卒業後は、盛岡市にある株式会社いわて若江農園に就職します。農大で学んだことを最大限に活かし、日々頑張っていきたいと思います。



### 仲間と学んだ2年間

果樹経営科 2年 佐藤 綾

入学してから早2年、果樹栽培について学びました。他の経営科の友人も多く、果樹以外の栽培等についても聞き、大変勉強になりました。農大での仲間というものは卒業後も大切な存在です。互いに手を取り合い、助け合いながら今後も交流を続けていきたいです。卒業後は、JA秋田ふるさとに就職します。配属部署はまだ決まっていますが、農大で学んだ知識や技術を最大限に活かし、地元・秋田県横手市へ農業で地域貢献できるように日々精進していきたいです。



### 2年間で振り返って

果樹経営科 2年 松浦 里菜

農業大学校での2年間は長いようで短くあっという間でしたが、学校生活や寮生活を通して様々なことを学ぶことができました。これまでに学んだことを活かして頑張りたいと思います。

私は、卒業後地元である葛巻町に戻り、実家の酪農経営を行いつつ、ブルーベリーを栽培します。2年間学んできた知識や技術を活かし、実家の農業の発展と地元葛巻町の農業発展に貢献していきたいです。



### 農大での2年間

花き経営科2年 小泉 玲那

私は実習や講義、事例研究をとおして、花きや農業の知識や技術を学ぶことができ、充実した学生生活を過ごせました。フラワー装飾技能士の国家資格に向けた練習では、仲間と切磋琢磨し、全員合格できてとても嬉しかったです。全国大会金賞受賞は、指導いただいた先生や応援してくださった皆様に感謝の気持ちで一杯です。私は4月から盛岡市のサン農園で働きます。農大での学びを生かして、岩手の農業に貢献できる人材になります。



### 卒業を間近にして

花き経営科2年 照井 真

農大に入学するにあたり、農業高校出身でないがゆえの不安もありました。しかし、特に不安が的中するわけでもなく、2年間、学友たちと切磋琢磨しあいながら楽しい学校生活を送ることができたと思っています。卒業後は3年後の独立を目指して、花巻市にある農業法人 T&G バイオナーサリーに就職してリンドウの生産管理を行います。農大で学んだことを存分に発揮し、即戦力として活躍できるように取り組んでいきたいです。



### 卒業後の目標

酪農経営科2年 小原 花月

私は農業大学校卒業後、JA 新いわての八幡平市繁殖育成センターへ就職します。私の実家は農家ではなかったのですが、動物が好きで農業大学校に入学し、実習や座学、数多くの事例研修を通して、牛や農業で使われる資格取得に励みました。また、全寮制ということもあり、相談しあえる最高の仲間と出会えました。卒業後は、農大で学んできたことを活かし、JA 職員としてまた学んでいき、地域貢献していきたいと思っています。



### 仲間との日々こそすべて

酪農経営科2年 山下 魁

私は、卒業後 JA 新いわてで家畜人工授精師として内定をもらいました。今まで自分の家の酪農のことしかわかりませんでした。農大での日々では実習、座学、事例研修を通して良質な生乳生産、農業機械の操作方法、資格取得等の高校の時より専門的なことを学ぶことができました。そして、周りに同じ志を持った仲間がいることが励みになりました。JA では経験を積み地域で必要とされる人材になれるように努力していきたいと思っています。



### 農大での経験を活かして

肉畜経営科2年 上下一 総

私は農大卒業後、岩手県北上市の西部開発農産へ就職します。私の家は非農家で、深く農業に触れたのは農大に来てからが初めてです。農大に来てからは、初めて経験することがたくさんありましたが、畜産を通してやりがいや楽しさを感じることもたくさんありました。農大での実習などを通して学んだ経験を活かし、畜産の発展に貢献できるよう、今後も畜産業に携わっていきたいと思います。



### 夢の実現に向けて

肉畜経営科2年 佐藤 太洋

私は幼い頃から牛が好きで、将来は牛飼いになるという夢を持ちました。高校時代に牛のことについて更に詳しく学びたいと思い、岩手農大の肉畜経営科に入学しました。入学してからは、素晴らしい先生方や、優しい先輩方、最高のクラスメイトに出会ってあっという間の充実した2年間でした。卒業後は北日本 JA 畜産(株)藤沢牧場に入社します。その後、自分の牛舎を持ち、和牛繁殖経営をしたいと思っています。この2年間で学んだことを今後生かし、夢を実現できるように頑張ります。

## ◆ 支部便り ◆

## 岩手支部

## 地域の仲間と共に

岩手支部 工藤 大地

平成 20 年 3 月に岩手県立農業大学校の酪農経営科を卒業し、すぐに八幡平市の実家に就農しました。実家では酪農を営んでいて、経営内容は、父・母と 3 人の労働力で経産牛 90 頭、育成牛 50 頭の計 140 頭を飼育していて、粗飼料畑は草地 50ha を作付けしています。また、育成牛は足腰の丈夫な牛を作る為、夏場は公共牧野での放牧を利用しています。

就農後は地元酪農家の後継者や若者で組織する「搾汁会」に加入し、同年代や先輩方と情報交換しながら、共進会参加で毛刈り調教など刺激を受けながら、一緒に活動をしています。また、地元の同志会の活動では、年 2 回の除角作業があり、地元酪農家の除角を共同で行います。その作業の中で酪農家との交流を深める事と先輩の農家の皆さんからたくさんの情報が聞けるので、とても良い勉強になり参考にしています。

これから酪農を続けるにあたり、牛乳という食品を作る立場なので、食に対する関心が高くなっている中

で、我々生産者も安全安心を第一に考え、みんなが喜んでたくさん飲んでもらえる牛乳をこれからも作っていきたくと思っています。

今後の目標として、父親から普段の仕事の中から学べる事は全て学び、労働力削減に向け作業の効率化を行い、人工授精は自分で行っているの、個体毎の改良に向けた種雄牛を選び利用しながら、牛群全体で長命連産・事故の少ない酪農を目指し頑張っていきたいと思っています。

そして、最後に農業大学校時代の友達とは現在も交流があり、情報交換や酪農の知識を共有し、互いを高め合う最高の財産となっています。

工藤 大地さん ▶



## 紫波支部

## 地域に寄り添った経営を目指して

紫波支部 吉田 達人

紫波支部から水稲と椎茸を中心に経営している矢巾地区の星川忠博さんを紹介します。

星川さんは、昭和 42 年生まれで 63 年度に農業課程を卒業後、地元 JA に就職しました。12 年前、退職し水稲 14ha と生椎茸（原木）六千本の複合経営を行っています。水稲の主力品種に四年前から岩手県オリジナル品種「銀河のしずく」の栽培を開始し、現在では経営の主力として位置づけています。

最近、貸地や地域農業者の老齢化により委託希望が大幅に増え、機械導入による作業の効率化を進めています。その一環として早くからドローンを活用して各種の防除作業を行っています。水稲の面積は今後も拡大していく計画です。

今年から矢巾地区の水稲部会の役員としても活躍しており、直播や密苗といった栽培技術を積極的に取り入れています。

原木椎茸は、両親が築いてきた基盤を引継ぎ、原木は県北からの導入と放射性物質の検査を徹底し、高品質管理に努めています。

大型小売店を主要な販売先としていますが、農作業の合間を見ながら毎月販売先を訪問し情報交換は、欠かしていません。また、短大在学時代からの仲間と定期的に交流し、研鑽に余念もありません。

現在は、両親も農作業に従事していますが、今後は雇用を増やし労働力の確保を考えています。農業機械や農作業で他の若い農業者と連携を図り、情報の共有で協力体制を築いていきたいと熱い想いを聞きました。

現在、コロナ禍の時期ですが、高一の長女と中一になる長男がおり、将来は子供達にも農業に関心を持って関わってもらい、一緒に働ければと目を細めていました。

今後の星川さんの活躍に期待しています。

星川 忠博さん ▶



## 奥州支部

## 地域の熱望に挑戦

奥州支部長 及川 良直

水稻の優良種子生産地で夢に向かって奮闘中の江刺稲瀬の小泉花衣さんを紹介します。

花衣さんは、小泉家三姉妹の三女として生を受け、認定農業者である父の姿を見て育ちました。農業に興味を持ったのは、彼女が小さい時から農作業を手伝い、収穫の喜びを体験したことで、いつからか農業を自分の職業にしたいと思うようになったといいます。

そこで、知識の習得や技術向上のため、農業大学校農産経営科に入学。恩師から「稲の声が聞こえるように・何を欲しているかわかるように」と徹底した指導を受け、米づくりへの想いは更に強くなったといいます。

卒業後、更に技術向上のため、宮城県の農業法人「オジマスカイサービス」に於いて、3年間の研修を行いました。その間、雇用を組み入れた経営や労働の平準化に向けたアイデア等の研修を積み、令和2年に帰郷し就農。同時に生産基盤である水田1.6ha、ハウス3aを譲り受け、農業経営に着手しました。更に、「農業次世代人材投資事業（経営開始型）」を利用し、安定した

農業経営を目指して奮闘中です。

そうした中、農作業に従事しながら「いわてアグリフロンティアスクール」への応募を始め、「胆江地方農村青年クラブ」への加入など地域活動の輪を広げています。また、熱心な担い手として熱望され、最近のドローンや無人ヘリでの農業活用のための免許取得が地域やJAから要望されています。

ハウスきゅうりの販売が不振の時、スーパーへの販売を勧めてくれた友人との連携が好成績だったことなど、同世代とのコミュニケーションの大切さを痛感するなど活動に対して自信が付き、夢が大きくなってきたといいます。

これから広がる農業の可能性に挑戦する姿が頼もしくもあり、素晴らしいと思います。今後、ますますの先進的な活動を期待します。

小泉 花衣さん ▶



## 技能五輪（フラワー装飾）で本県初の **金賞** 受賞！ ヤンマー懸賞作文コンクールで **金賞** **銅賞** 受賞！

第58回技能五輪全国大会（フラワー装飾職種）が令和2年11月13～16日に愛知県で開催され、本県代表として花き経営科2年の小泉玲那さんと菊地修司さんの2名が参加しました。この大会は、各都道府県の予選を勝ち抜いた23歳以下の青年技能者が一堂に会し、技能レベルを競うものです。花束、ブライダルブーケ、サプライズ競技、テーブルアレンジメントの4課題で競った結果、小泉玲那さんが本県初の金賞（全国1位）を受賞しました。また、本大会は、令和4年に中国の上海で行われる技能五輪世界大会の予選を兼ねており、小泉さんには、日本代表としての活躍が期待されます。



テーブルアレンジメント作成中の小泉さん



村上さん（左）と菅谷さん（右）

続いて、第31回ヤンマー学生懸賞論文・作文コンクールの入選発表会が令和3年1月29日にリモート開催されました。作文の部では、全国から406点の応募があり、すでに入賞13点に選ばれていた野菜経営科2年の村上一江さんと菅谷勇太さんは、本校図書館内の視聴覚室にスタンバイし、緊張した面持ちで発表を待ちました。その結果、菅谷勇太さんが金賞（全国1位）、村上一江さんが銅賞を受賞しました。

おめでとうございます！

**東日本農業大学校等プロジェクト発表会・意見発表会で  
照井真さんが最優秀賞、小野沢りんさんと村上一江さんが優秀賞  
を受賞！ 続く全国大会でも村上一江さんが特別賞を受賞！**

東日本農業大学校等プロジェクト発表会・意見発表会は、コロナ禍の影響のため、各校で発表動画を撮影し、令和3年1月18～19日に審査会が開催されました。その結果、本校からは「意見発表の部」で花き経営科2年の照井真さんが最優秀賞、肉畜経営科2年の小野沢りんさんが優秀賞に、卒業研究の成果を発表する「プロジェクト発表の部」で野菜経営科2年の村上一江さんが優秀賞になり、全国大会に進みました。なお、全国大会出場者5名のうち3名が本校でした。

◇ 意見発表の部

「地域の資源を活かす～ Lindo とキノコで町を元気に～」

花き経営科2年 照井 真 … 最優秀賞 → 全国大会へ

「牛飼いで目指す地域貢献」

肉畜経営科2年 小野沢 りん … 優秀賞 → 全国大会へ

◇ プロジェクト発表の部

「岩泉町におけるフルーツほおずきを活用した地域活性化を目指して」

野菜経営科2年 村上一江 … 優秀賞 → 全国大会へ

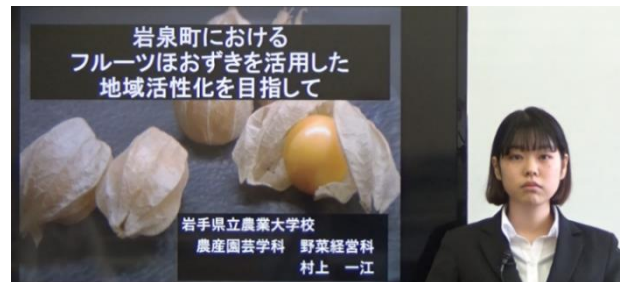
「環境制御技術の導入と尻腐れ果対策によるピーマンの収益性向上効果」

野菜経営科2年 関川 耕司

「安価販売に向けたシャインマスカットの極小房栽培法」

果樹経営科2年 山田 柚季

全国農業大学校等プロジェクト発表会・意見発表会は、東日本大会と同様に、発表動画を審査する形で、令和3年2月15～17日に審査会が開催されました。その結果、「プロジェクト発表の部」で村上一江さんが特別賞（全国4位）を、「意見発表の部」で照井真さんと小野沢りんさんが優良賞を受賞しました。おめでとうございます！



**県内の教育機関で初めて ASIAGAP  
認証を取得！ 農場 HACCP も認証審査中**

本校は、ASIAGAP（アジアギャップ）について令和2年11月5～6日に審査を受け、12月7日付で認証【穀物（玄米）、青果物（トマト、りんご）】を取得しました。ASIAGAPはGLOBALG.A.P.（グローバルギャップ）と並ぶ国際水準のGAP（農業生産工程管理）であり、県内の教育機関では初めての取得となります。本校では平成30年度からGAPに取り組み、令和元年度はトマトで岩手県版GAPの確認登録を受けています。学生はGAPの基本や目的を学ぶとともに、専攻実習においては各経営科で作成した作業手順（生産工程）を実践してきました。また、職員はGAPの指導員研修を受講するなど、GAP認証取得の準備と学生指導に努めてきたことにより、その努力が報われる結果となりました。

また、農場HACCP（ハサップ）についても、認証【乳牛、肉牛】を取得すべく、令和3年1月18～19日に現地審査を受けています。農場HACCPとは、畜産物の安全性を確保する手法のひとつで、飼養衛生管理において危害要因分析を行い、必須管理点を決めてリスク管理を行うシステムです。こちらも認証されると県内の教育機関で初めて、国内の農業大学校で2校目の認証になります。 乞うご期待！



## 令和2年度岩手県立農業大学校同窓会総会報告（抜粋）

令和2年度総会は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、書面議決による審議となりました。その結果、代議員34名中30名の賛成（棄権4名）で承認されました。総会で決定した事業計画の概要は次のとおりです。

### 【令和2年度事業計画】

本会の目的達成のため、支部活動の促進と会報の内容充実等により組織活動の強化を図るとともに、農業大学校の教育目標を支援する事業を次の通り実施することとしております。

- 1 支部活動の促進（支部活動への助成）
- 2 同窓会会員台帳の整備
- 3 同窓会会報の発行（令和3年3月上旬）
- 4 農業大学校卒業生交流への支援
- 5 農業大学校事業支援
  - (1) 海外農業研修代替に対する事例研究支援
  - (2) オープンキャンパス事業支援  
(令和2年8月1日、7日)
  - (3) 農大祭支援  
(令和2年10月31日～11月1日)
  - (4) 学生表彰事業
    - ① 名称：岩手農大同窓会長賞
    - ② 対象：皆勤（2年間無欠席）の学生
- 6 農大同窓会全国連盟・東日本同窓会連盟への参加
  - (1) 東日本農大同窓会連盟総会（令和2年6月、北海道）
  - (2) 農大同窓会全国連盟総会（令和2年7月、東京都）
- 7 その他
  - (1) 入学式（令和2年4月9日）
  - (2) 卒業式（令和3年3月10日）

### 令和2年度同窓会役員名簿

役職	氏名	支部	役職	氏名	支部
会長	笹田 昭市	盛岡	理事	槻山 隆	一関
副会長	高崎 覚志	二戸	理事	林田 勲	気仙
副会長	石関 啓志	遠野	理事	内舘 勝則	宮古
理事	田村 忠	岩手	理事	岩城 明	久慈
理事	菅原 忠文	紫波	監事	千葉 欣哉	北上
理事	藤原 勝栄	花巻	監事	中家 将介	奥州
理事	千田 敏夫	北上	事務局長	小原 浩美	奥州
理事	及川 良直	奥州	事務局長	佐藤知己、山口直己	農大



## 令和3年3月卒業予定者の進路状況について

今年度の卒業生は52名ですが、進路の内訳は自家就農9名、農業法人等25名、農業団体6名、農業関連企業2名、一般企業等2名、公務員等2名、研修3名、進学3名となっております。

主な進路先は以下のとおりです。

区分	進路先
就農	葛巻町、紫波町、花巻市、北上市、大槌町、秋田県横手市、東京都立川市
農業法人等	合同会社 安比グリーンファーム遠藤、(株)いわて銀河農園、(株)いわて若江農園、独活倉畜産、(有)岡外牧場、菊池長悦、一般社団法人 北上市機械化農業公社、北日本JA畜産(株)、(有)キロサ肉畜生産センター、(株)KOIWA、(有)サン農園、(株)重次郎、(株)西部開発農産、(有)田鎖農園、(株)T&G バイオナーサリー、農事組合法人 となん、(有)マルショウ農園、(有)水分農産、(株)リアスターファーム
農業団体	JAいわて平泉、JA新しいわて、JA秋田なまはげ、JA秋田ふるさと
農業関連企業	(株)日本ニューホランド、ミネックス(株)
一般企業等	社会福祉法人 愛護会、(株)ゼントクコーポレーション
公務員等	公益社団法人 岩手県農業公社
研修	北海道士別市、秋田県農業研修センター、群馬県館林市
進学	弘前大学農学生命科学部、新潟大学農学部、新潟食料農業大学